



一緒に歩んで行けるから ずっと、私たちらしく暮らせる家。 杉の木のやさしい風合いが とても気に入っています。

土佐の自然素材を使った家づくりの実例

所谷さんの家 高知県吾川郡

**自然素材ならではの魅力が
うれしい！**

高知市から車で1時間ほどの山里にお住まいの所谷さんご夫妻。ご主人の定年が近づき、その後の暮らしを自然の中で……と考えられたとのこと。海の近くで育った釣り好きのご主人と、登山が趣味の山育ちの奥様。海か山かを迷われたようですが、奥様の故郷でもあるこの場所に「これぞ！」という土地を見つけ、ご夫婦の暮らしにぴったりのお家が完成しました。かつて設計事務所にお勤めさ



大きく開放的な窓から
気持ちよい風が吹き抜けるリビング

れていた奥様の眞智子さんがデザインを手がけ、地元の木と和紙をふんだんに使って長年の思いをカタチにした素敵なお家です。

玄関を開けるとほんのりと木の香が漂い、足元はさらりと心地よい無垢材の感触。屋根の傾斜を利用した中2階のある広々とした空間に、和室、リビング、ダイニングが続き、その脇には動きやすいサイズのキッチン。南側と東側に大きく窓をとった明るく開放的な室内に、気持ちのよい風が吹き抜けます。「この夏は、エアコンなしで過ごしたんですよ」と奥様。自然の風があまりに心地よく、ご主人の提案で「ひと夏のお試し」を実行しましたが、梅雨時も盛夏も特に困ることはなかったとか。木の家は通気性がよく、湿気を逃がしたり吸収したりするため、じめじめした不快感がありません。土佐和紙の壁紙も湿度の調節に一役買っているようです。

自然素材の家は、長く住むうちに深い味わいが出てくるのが魅力。奥様の一番のお気に入りは、真っ白だった杉の床板がだんだんと深みのある色合いになってきたこと。住み始めて4ヶ月、人と家がしつくりなじんできたのを実感されています。

壁面のほとんどに使用している土佐和紙の壁紙もまた、歳月を経て色味が変化する素材。水拭きすることはできないものの、丁寧にほこりを払えばきれいになり、目立つ汚れや傷ならちぎり絵の要領



高知県産の杉の柱や梁をはじめ、自然素材がいたるところに使われている



壁面のほとんどに使用している土佐和紙の壁紙
自然素材だから、年月とともに変わる風合いもまた楽しみになる



で重ね貼りして補修することができます。手をかけていくうちに、さらに愛着がわく住まいになりそうです。

あちらこちらに施された 所谷家流の賢い技

大人の二人暮らしを念頭に、住まい方はコンパクトでタイト。食器は2つずつを基本とし、キッチンは1人でキビキビ動くための省スペース設計。寝室は2つのシングルベッドとテレビ一台がちょうど収まるジャストサイズに。本当に必要なスペースだけを確保し、「モノを置けない広さ」にすることが、奥様流のモノを増やさないための工夫だとか。寝室の隣にウォークインクローゼットを設け、



衣類や寝具を整理されています。夜の眠りを快適なものにするため、この寝室にのみエアコンを設置。さらに、寝室と洗面・浴室の床下には竹炭を敷き詰めています。竹炭には吸湿・消臭の効果があり、マイナスイオンを発生させて良い空気を作る作用があるので、寝室は心身ともにリラックスでき、快適な眠りによって明日への活力を養う「再生」の空間となっています。

寝室から出た廊下の壁面は、一見「木の壁」に見える一面の収納庫。暮らしに必要な大小さまざまなアイテムが収まっています。さらに廊下のつきあたりには、食品ストックや使用済みのトレイ、BINなどの再生資源を一時保管しておくためのパントリー。キッチンに「いつも使うもの」だけを常備できるすっきりキッチンの秘密は、ここにありました。普段は



大人のシンプルライフを満喫しつつ、週末は3人のお孫さんたちが泊まりにきて大賑わいの所谷家。奥様のバイタリティーとパワフルな収納力で、そんな大勢のわいわいモードにもしっかり対応しています。

自然を愛する人の家づくり

家づくりにあたり、こだわったのは「自然を守ること」。ビオトープ施工管理士の資格をお持ちの奥様にとって、自然を守り、共に暮らすことは人生のテーマでもあります。近くにある良質の木を使い、地元の大工さんにお願いすることで、材料の輸送や大工さんの移動によって排出されるCO₂を少なくし、地元の木を消費することで「山荒れ」の改善に少しでもつながればと考えました。そのこだわりを持った家づくりだからこそ、満足のいく住み心地を生み出しています。暮らしに必要なものを一つひとつ吟味して絞り込んだ結果、リサイクルできる自然素



仕事をしながらリビングの様子を窺うことができる中2階の仕事スペース

材を選び、生ゴミ処理機を取り付けた、環境にもやさしい住まいを実現。最新プレカット技術を駆使した木材を使用することで、コストを抑えて納得のいく家づくりができます。



中2階の仕事スペースへの階段と
自然素材にマッチしたカラーリング
の省スペースキッチン

現在、ダム建設予定地に生息する希少生物・植物の調査研究を手がけておられる奥様の仕事スペースはリビングの中2階にあり、仕事をしながらリビングの様子を窺うことができます。仕事机から席を立ち、階段をとんとんと降りた先はもうキッチン。細長い空間を上手に使って、植物標本や図鑑などの資料が並べられているなど、主婦業とお仕事の両立を目指す女性にとっては、憧れの書斎になっています。

夜になり、飼っている鈴虫が鳴きだすと、庭の鈴虫がそれに応えてちょっとしたセッションが始まるのだとか。「この夏は、部屋の明かりに誘われてカブトムシやクワガタもやってきましたし、朝はセミの声で目覚めることもありました。」自然とコミュニケーションしながら、一緒に暮らす喜びを体いっぱいに感じておられるご様子です。

ご夫婦のこれから楽しみは庭造り。現在とりかかっている家庭菜園をさらにパワーアップさせ、素敵な庭にしたいと意欲満々に語ってくれました。春には、庭の真ん中に植えた桜の木が淡いピンク色に染まり、違った表情の所谷邸を見ることができそうです。